

## 令和7年度特別支援学校による幼稚園、小・中学校への地域支援の実施状況

		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計 (のべ数)
実施回数		0	177	53	115	74	30				449 (回)
実施園校数		0	172	53	113	70	30				
実施校の内訳 (回数は年間)	1回目	0	167	49	92	58	23				389 (校)
	2回目	0	5	3	20	10	7				45 (校)
	3回目以上	0	0	1	1	2	0				4 (校)
訪問教員数		0	226	63	136	85	32				542 (人)
参加教員数		0	1189	324	707	411	203				2834 (人)
対象幼児児童生徒		0	200	65	135	87	37				524 (人)

※年間の実施園校数の累計

## 対象幼児児童生徒の内訳

		5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計 (のべ数)	割合
発達障害 (診断有)	LD	0	0	2	0	0	0				2 (人)	0.4%
	ADHD	0	13	6	10	8	4				41 (人)	7.8%
	高機能自閉症等	0	62	21	44	31	6				164 (人)	31.3%
	(小計)	0	75	29	54	39	10	0			207 (人)	39.5%
障害種別	知的	0	57	16	31	18	11				133 (人)	25.4%
	肢体	0	17	6	5	6	2				36 (人)	6.9%
	難聴	0	11	1	10	3	0				25 (人)	4.8%
	弱視	0	6	0	3	3	0				12 (人)	2.3%
	言語	0	0	1	1	0	0				2 (人)	0.4%
	病弱	0	0	1	1	1	0				3 (人)	0.6%
その他		0	34	11	30	17	14				106 (人)	20.2%
合計		0	200	65	135	87	37	0	0	0	524 (人)	

## &lt;幼稚園、小・中学校の所感&gt;

○児童が落ち着かないときが多く、1学期後半から試行錯誤の日々が続いていた。指導方法にも迷いがあり、担任は本人との関わり方で悩むことも多々あった。その中で、専門的な視点で児童の様子、授業の様子を見てご指導していただいたことは、担任だけでなく学校全体の財産になった。担任が困っていることを主に聞いていただき、担任の心の負担も軽減される会となった。

○普段は知ることの難しい、特別支援学校における環境面での配慮や、個に応じた指導について知ることができた。普段の行動や診断結果を生かしながら、視覚優位や聴覚優位などその児童に合った支援の方法を探っていくことが大切だと分かった。

○行動・特性観察記録シートを用いた行動の機能分析(ABC分析)をホワイトボードに記入しながらご助言いただいた。困った行動には意味があり、本人のSOSのサインであるということに改めて感じた。そして、困った行動が問題行動なのではなく、その事前の出来事やそれにより本人が得ているものを変えていく必要性を学んだ。また、困った行動をやめさせるよりも、替わりとなる適切な行動を増やすことに注目することで、本人をはめる機会を増やしていきたいと感じた。

○通常の学級の中でも個別の支援を要する子が増えている中で、専門性の高い先生方に普段の様子を見ていただき、具体的にアドバイスや支援方法を教えていただける機会はとても貴重であった。該当生徒の担任、学年主任のみならず、こういった検討会で教えていただいたことを、校内研修等で広く他の教員にも伝えていくことで、教員の力量アップにもつながっていくのではと思った。

## &lt;特別支援学校の所感&gt;

○支援・指導検討会に多くの先生方が参加されており、よりよい支援方法を検討していきたいという積極性を感じる学校が増えている。

○「困った」と思われる児童生徒の行動の意味を一緒に考え整理し、児童生徒への見方や関わり方の視点が変わることで「そうだったんですね」「やってみます」と言ってくださることを嬉しく感じた。複数回訪問させていただいた学校では、初回に伝えたことを実践され、早速成果が出ており嬉しかった。

○どこの学校でも対象児童生徒の担任や特別支援教育コーディネーターからは特別支援教育を学ぼうとする気持ちが伝わってきた。担任の多くが、これまでの指導・支援の方向性が適切であったかを確認したかったと話していた。

○発達障害児等支援・指導検討会を全職員で実施する学校があり、職員研修の機会として活用されている学校がみられた。